

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500772		
法人名	有限会社 タケタニ		
事業所名	グループホーム「まごころ」		
所在地	〒856-0817長崎県大村市古賀島町120-14		
自己評価作成日	平成22年1月15日	評価結果市町村受理日	平成22年4月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成22年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆるやかなりハビリ階段を使って二階の談話室へ上ると、その窓辺より間近に見えるエアポートの夕日に映える大村湾の景色の素晴らしさはかぎりなく、利用者様の心を癒してくれます。温度・湿度の調整をこまめに確認し、それに対する対応を心がける。脱水・精神不安の予防の水分摂取を促すことの徹底。食事作りは手を加え、栄養士指導を受けながら個々に合わせた量と摂取しやすい工夫等を提供する。掃除はこまめに行うことで、気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。個人の意思や能力に合わせて、その人らしく楽しい生活が出来るように側に寄り添っている。私達は、日々向上心を持って一人ひとりの個性を大切にしたいケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは空港近くの市街地に位置しているが、周辺は畑や住宅地が広がるゆったりした雰囲気に包まれている。長年、介護に携わられたホーム長は、認知症ケアはもとより、食中毒の予防など生活環境の整備にも力を注がれている。開設時より地域の方とのかかわりを重視されてきた結果、地域からの信頼も厚く、盆踊りなどの地域の行事には、入居者の為の観覧席を用意していただけるような関係が築かれている。視界の広い2階談話室は二重サッシで防音されており、入居者が美しい夕日を眺めたり、夏の花火見物も楽しめる和みの空間である。また隣接の多目的ホールは入居者の楽しみごとや気分転換ばかりでなく、地域の方々との交流の場としても活用されている。福祉車両の購入や介護タクシーの利用などで入居者の気軽な外出、ドライブの支援に対応されており、職員の見守りの中、歌声が響き笑顔が多くみられる、多方面に心配りの行き届いたホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をよく理解し、朝のミーティング時に斉唱している。気持ちの統一が出来て、共有すべき理念を頭に入れながら、日々のケアの中で実践している。	4つの理念を掲げられており、「地域」の中で、入居者と共に感謝しながら、入居者の「安心と尊厳のある暮らし」を損なわず「家庭的な楽しい」関わりのなかで「皆が家族の一員」として生活することでホーム理念の実現がなされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム運営には近隣の方々の理解や協力も不可欠で、町内の盆踊りの参加や有志による詩吟・カラオケ(講師の毎週1回の指導)も定着し、入居者はその日を心待ちにされている。	開所当時から、地域の方々に認知症を知ってもらう取組みに努められている。近隣の方とは収穫物をいただいたり地域の行事でお世話になったりという関係が築かれており、多目的ホールは交流の場としても活かされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な研修・会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めている。人材育成の貢献として、高校生の実習生受け入れやハローワークのトライ雇用も行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催するごとに参加者からの意見も多くなっており、地域の理解と支援を得るための貴重な機会となっている。更に市職員の参加によって、市で取り組まれている事の説明を伺うことが出来る。	敬老会に合わせた会議では「地域交流」「家族支援」を議題に選び、「インフルエンザ対策」「食事」を取り上げ試食と現場見学を兼ねるなど多彩な工夫をされている。また、意見交換の場にもなっており、認知症に関する話は参加者に興味を持っていただいている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回支援相談員の来所があり、気軽に連絡を取りやすくなっている。また、認定更新の機会等に利用者の暮らしぶり・ニーズを具体的にお伝えすることで、連携を深めている。	市の担当者とは介護認定時なども含めて、連携をとりやすい関係が築かれている。地域包括支援センター、年6回のケアマネジャー勉強会等を通じて事例検討など様々な情報交換に連携を取られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の中が観察できるように居室の変更(ご家族に同意を戴く)をして頂く等、職員の見守り方法を徹底している他、ベッドからの転倒防止の為に厚めのマットを設置するなど、拘束しないケア方法・対策をとっている。	車椅子利用者には長時間の座位が疲れると、安全への見守りの中、座敷で横になられるなど、ご本人の立場になって体のことや精神面にも配慮をした生活支援に努められている。玄関の施錠は夜間のみ行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、暴言や無視、いやがらせがないように把握している。失禁された後に、水分補給不足による脱水症状を招いていないかどうか等の徹底チェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「対応が必要」と思われる利用者様がいる場合は、随時職員に対して説明やアドバイスを行うようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み等を説明し、退去時には特に、ご家族・利用者様が納得されるよう十分な説明を行っている。また、医療連携体制の詳しい説明を行い、同意を得るようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお支払い時にプラン・状況把握の説明を行い、(支援経過記録で全スタッフが「特記事項」として明記している内容を元に)対応したスタッフがコミュニケーションを記録し、運営に活かせる様にしている。	家族の方とは気軽に意見を交換できる親戚のような関係を築かれている。御意見は真摯に受け止め、職員と家族との話し合いの上で支援に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	給与明細書を毎月手渡し、職員の状況や要望・意見などを聞く機会にしている。又、明細袋にメッセージを書いて、交流を図っている他、公休希望を受付け、切り日後にその状況を聞いている。	月1回の全体会議やその他の機会をと捉えて意見交換がなされている。夜間の転倒防止用マットの使用についてや、花壇作りの提案などがあり支援に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場にきたり、昼食を一緒にとったりするなどしている。更に職員の休憩時間を気分転換出来る場所に確保している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加が出来る勤務表の作成や、新人研修には1ヶ月ほど「マン・ツー・マン」の体制を取り、丁寧な指導の実施と、対応する職員の指導にも取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヵ月ごとのGH協議会の交流、機会毎の懇親会の参加、介護支援専門員の研修会、包括支援センターの案内などで交流し、親しい同業者からの意見と相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、必ずご本人にお会いして、心身の状態やご本人の思いに向き合い、入居やサービスの導入前に職員に対してそれらの説明を行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との契約時、グループホームについての理解を戴き、ご家族と一緒に対応できるような事前に話し合いを行い、ご家族の意向をよく伺うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には「利用者本位」の柔軟な対応を行うため、他事業所のケア・マネージャーと連携して(当施設の利用機会だけでなく、)他の事業所でのサービスにもつなげる。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する、される側という意識を持たず、お互いが協力しながら和やかな生活が出来る場面づくりや声かけをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(ご家族に対しては、)利用者の様子や職員の思いをきめ細かくお伝えし、その様子やご家族の意向・要望が他の職員にも一目で分かるように介護日誌への記述をするなど、互いの協力関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と実家の墓参りを継続して行って頂くよう配慮するなど、一人ひとりの(既存の)生活習慣を尊重しているほか、ご家族の面会についての支援もお願いし、受診時も職員と同行していただいている。	家族との「絆」を大切に配慮した運営と支援がなされている。馴染みの先生を招き詩吟教室を開催して継続的な交流に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、情報を共有する。(食事の席・不穏時の動きなど、全職員が情報を共有している) その時の感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去されることがあるため、アセスメントやケアマネ所見、更にケアプランや支援状況などの記録書類・情報などを手渡し、相談などに応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で声かけを行い、把握に努めている。言葉や表情などからその意思を推し量ったり、それとなく確認するようにしている。	日々の生活の中で言葉の不自由な方には、文字を使って確認するなど、自己決定しやすくすることに配慮した支援がなされている。洗濯物を畳む時も、自室でならできる方もおり、出来ることへの思いを大切に心がけた対応がなされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が入居される際、事前に生活歴や入居前の心身状態、家族の介護力などをお聞きし、その情報を管理者が職員に対して事前に説明を行うほか、そうした情報を他の職員も閲覧が出来るようにファイルしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム(食事・睡眠・排泄時間・生活習慣)の様子を午前/午後に分けて記録し、医療に関することや気付きなども別欄に記入するなど、それを閲覧してすぐに十分な対応ができるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフが毎月ごとに利用者二～三名のアセスメント・ケアプランを作成し、管理者であるケア・マネージャーがそれらを集約・検討して、利用者一人ひとりの課題である具体的援助内容にまとめている。	利用者や家族の意見や思いはもちろん、「介護・看護日誌」、連絡ノート、業務日誌からも多面的な気づきが得られており、介護計画作成に役立てられている。定期だけでなく 必要に応じて見直されるアセスメント、ケアプランが適切な支援に繋がっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの個別ファイルに食事・水分摂取量・排泄などの身体状況や日々の暮らしの様子・ご本人の言葉などの記録を綴じて、常に職員が確認できるよう保管し、それを勤務開始前に確認するよう義務付けている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族の状況や要望を軸に、通院や送迎など、必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高める努力をしている。初回、緊急受診時はご家族の同行をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議へご家族・町内会長・民生委員・市の高齢者福祉担当職員等に参加して頂き、情報交換や協力関係を築いており、更に救急車の対応時に必要な名前・生年月日を記入した一覧を消防署に預けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者ご本人の「希望するかかりつけ医への受診」を基本に考え、相談に応じ対応している。投薬の必要な病状についてはご家族に同行を依頼し、出来ないご家族には要望・相談に応じてナースが援助を行っている。	他科受診は基本的に家族対応であるが、受診時には電話やファクスを使い情報の連携に努めている。眼科などは相談に応じて支援がなされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調や些細な変化を見逃さないよう、全職員で取り組んでいる。変化に気付いた時は、管理者・看護職員に報告し、適切な医療につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急入院その他の入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。入院時は一週間に一度、お見舞いに伺っており、ご家族との回復状況等を情報交換している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・主治医・ナース・管理者が利用者の意向と心身状態を踏まえて話し合い、その支援に取り組んでいる。ご家族は、医療的な問題について主治医の先生より状況の把握をされ、理解されている。	重度化に際しては、家族に移行する時点の基準を明確にし説明をされており、看護職員が対応できる最大限の支援を心がけられている。終末期の看取り経験もされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時に急変が起きて夜勤者一人での対応が出来ない場合、内線で代表者に伝えて救急支援を行っている。全スタッフは更なる実践力を身につけるため、応急時の訓練や研修を継続して行っていく。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年二回消防署の協力を得て全スタッフによる避難訓練(消火器の使い方等)を適宜行っているほか、地震・水害等災害時の避難場所の確認と確保・食料・飲料水の備蓄を行っている。	全職員で避難訓練を実施し誘導や消化器の取り扱いも確認している。地元消防団や近隣住民との協力体制もできており、居室にはそれぞれ懐中電灯を備え付けている。	災害対策は十分に備えられているが、災害時の混乱が起こる場合などを想定して、個人情報ファイルを1冊にまとめられ、緊急持出し用として加えられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要なきも、ご本人の気持ちや羞恥心を大切に考え、さり気ないケアを心がけている。また、状況に応じて会話を行い、ケア内容を理解して頂くなど、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	入居者の意向を知り、納得していただくためにも、一人ひとりに「その人を知る」ための細やかな努力をされ、利用者に合わせて言葉かけの中で「説得より納得」していただく支援がなされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には表情などで読み取ったり、些細なことでもご本人が決める場面を作っている。嗜好調査や入居者の意向調査などで把握する。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、時間を区切ったケアの仕方はしていない。利用者の体調に配慮し、その時のご本人の気持ちを尊重して個別性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の生活習慣に合わせた支援をしている。行事・誕生日などの際はおしゃれやお化粧をして楽しんで頂けるようにしている。ご本人こだわりのスタイルを把握し、その人らしさを保てるように援助している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは前日に尋ねて希望の食材を調理している。ケアの一環として調理・盛り付け・配膳などを入居者がスタッフと共に行い、その役割も定着している。又、はしや食器なども個別に対応している。	キッチンと向き合うカウンターが座敷からフロアへと延びており、畳に座って食べることも出来る配慮がされている。メニューも工夫されており、食前には口腔体操の和やかな替え歌も聞かれた。職員も一緒に静かな会話を交えてゆっくりと食事を楽しまれている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう努め、その取組みを介護日誌に記録している。全スタッフは業務開始前にその記録を把握し、業務を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でケア可能な場合は声かけを行い、義歯を外し洗っているかどうか等の見守りを確実にを行う。ご自身で出来られない場合、毎食後にケア介助を行い、口腔疾病の予防・口臭防止・QOL向上等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しつつ、利用者の様子を敏感に察知しながらトイレで排泄をして頂くことを大切にしている。又、排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者様にも時間を見計らい排泄に誘導する。	トイレでの排泄を自立と捉え、入居者の体の動きを察知しながら誘導され、やさしく声かけしながら、見守り自立に向けた支援に心がけている。水分摂取にも十分注意を払った支援がされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操による運動と、(排泄パターンを記録・管理しながら)白湯・お茶・牛乳・ヨーグルト等で十分な水分の補給を毎日徹底して行っている他、繊維質の多い食材を提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が入浴を一方的に決めるのではなく、利用者様のその日の希望を十分に聞取った上で行う。入浴を拒む利用者様に対しては、言葉かけや対応の工夫で入浴を促すなど、一人ひとりに応じた入浴支援を行っている。	入居者の希望にあわせて週2、3回の入浴支援がなされている。入浴を拒まれたり、入浴されない日には清拭で対応されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく、日中でのコミュニケーションや様々な活動を促すことで、その利用者様なりの生活リズム・睡眠時間を整えるようにしている。又、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、休息が取れるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ご本人の状態に変化が見られる場合、いつもより詳細な記録(看護記録に医療欄を設けて明記している)を行い、看護職員が協力医療機関との連携を図れるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりが自らの得意分野での力を発揮して頂けるよう、その方に合った仕事・作業を依頼している。更に、利用者様がそうした作業・仕事を終えられた後、感謝の気持ちを必ずお伝えするようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様一人ひとりの習慣や楽しみに合わせ、喫茶店や近所の神社までの散歩、「まごころ菜園」への水遣り、野菜の収穫などを行うなど、利用者様と職員、更に地域の人々との体験共有をする事が出来ている。	外食や買い物に出かけたり、コーヒーの好きな方は喫茶店へ送迎するなどの個別支援がされている。利用者には自分で支払ってもらう支援にも努めている。散歩コースには商業施設や温泉施設もあり、車椅子で戸外へ出かける支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向をよく伺った上で対応している。当施設による小口の個人預かりで、その中からカット代、薬代等の支払いをされる。職員と一緒に外食や買物をされた時は、お金を所持して購入出来るよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃、子供さんやご親類等に電話をされる利用者様に対しては支援している。手紙を出すことは好まれないものの、それを受取る事は喜ばれる為、ご子息・その奥様には電話・手紙の支援をお願いしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって利用しやすい配置や、馴染みの物を取り入れた設えになっている。ホールでの食事の配置では特に、利用者様にとって不快や混乱を招くような状況がある場合、それを工夫しながら改善し、居心地よく過ごせるよう配慮する。	廊下にはベンチや肘掛け椅子が置かれ、木のぬくもりあり、落ち着ける共用空間となっている。キッチンからも見通しの良い座敷には、季節に応じた飾りつけがされており、テーブルセットが置かれたホールは十分な広さで入居者それぞれ好みの居場所がある。また、廊下のベンチを好みの場所としている方もおり、2階に花を生けたり景色を見楽しむなどリハビリ階段が活かされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数であっても、集団でいることに落ち着きを持ってない利用者様に対しては、利用者様の意向をよく伺い、不安やストレスの原因とならないよう一人になれる場所作りを行うようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品を持ち込まれ、それぞれの利用者様の「居心地の良さ」に配慮している。又、収納庫などは仕舞っている衣類が外から見えて整理しやすい事を考慮するなど、身体状況に合わせて使い易くなっている。	居室は畳の部分もある窓辺の花、ぬいぐるみ、仏壇、写真、タンスなど、大切なもの馴染みの品などそれぞれに入居者に合わせた配置がされており、また転倒防止に配慮してマットを置かれた居室もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状況に合わせ、押入なども取り出し易い場所に設置している。押入に物を入れる事を嫌いな方もいるため、(そうした場合でも)その方なりの求めている自立した生活が送れるように工夫している。		